

ひびき通信

平成 25 年
5 月 版

高口光子さんによる、人づくり、組織づくりの極意を学ぶセミナーが五月十二日に当センターで開催されます。残席あと

5 月 12 日開催

残席あとわずかです

高口光子さんから学ぶ
人づくり、組織づくりの極意

わずかとなっております。申し込みは、電話〇四四・九五五・一七二一、FAX〇四四・九五五・一七二二まで。

グループホーム響で百歳のS子さん看取る

職員に見守られ安らかに

ご家族のご理解とご協力に感謝します

グループホーム響に入所されていたSさんが四月八日にスタッフに見守られながら安らかに息を引き取りました。享年百歳と四ヶ月でした。

Sさんは、平成十九年五月二十五日に入所されました。入所されて八ヶ月目に体調を崩して入院。退院してからは、ご家族が交代で昼食を介助され

ました。最初は重湯一さじから始まり、次第に量も増え、一時はお粥から普通のご飯が食べられるまでになりました。ご家族の喜びをしっかりと受け止めての回復振りには、スタッフもびっくりしました。

九十九歳を迎えた頃から段々お食事が難しくなり、百歳を迎えられた昨年十二月より本格的な看取りケアに入りました。終末期医療と看取りケアに関する祈りいたします。

残った身体機能を引き出し、浮力を活かす

入浴介助の基礎と本質を学ぶ

「こだわりの入浴セミナー」がこのほど、当センターで開催されました。生活リハビリを実践する上で基本の一つとなる入浴介助について、実際にお湯を張った浴槽を使って体験しました。



バスタオルも効果的に使用



シャワーではなくかけ湯で



浮力をうまく使って介助

こだわりの「入浴セミナー」



移乗介助のポイントを学ぶ

麻痺のある方や車椅子を使われている方々をリフトなどの機械に頼らず、普通のお風呂に、普通に入っていたために、残っている身体機能を理解し、しっかりと引き出すことのできる介助技術

身につけなければなりません。さらに、「恥ずかしい」という思いに配慮するきめ細かな対応が求められます。セミナーには、初めての方ばかり九名が参加。金田センター長から、「入浴する」こ

どの意味や麻痺側への移乗のコツなど、入浴介助に不可欠な理論と技術のポイントを学んだ後、お湯を張った浴槽に移動。かけ湯の効果的な方法をはじめ、浮力を活かした介助法を学びました。

参加者たちからは、「今まで自分たちがやってきた入浴介助がいかに自分本位だったかよくわかりました」「なんとか自分たちの施設でも実践していきたい」といった感想が寄せられました。